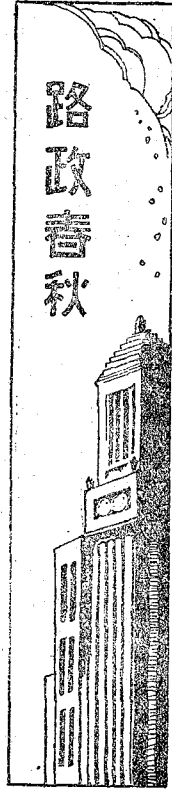


路政春秋



嬉しとも嬉れし鋪道 の顔

惨状の甚しきを極めた神戸の水禍、聞くも身の毛の彌立つを覺ゆる、一體何所から手をつけていゝのか此先き幾月を経なければ回復の姿を見られないであらうかと市民の憂は全市に一抹の暗影を投げかけられた。だが人の努力は力強いものである。同情の力は強いものである、市民必死の働きは災後半ヶ月で國際道路その七、八尺の堆積砂は取り去られ六百米の間はやくも鋪道の顔が現はれて自動車も動きも見られることゝなつた、出船に暮れて入船に明ける神戸の港街に嬉れしい空氣が流れ出た、更らに

復興委員と復興専門委員との優越せる智能の現はればやがて災害対策となつて神戸をして倍舊の振興を爲さしむるの基礎が樹立せらるゝであらう。

半島の道路明朗化せ

朝鮮併合以來土木に産業に教育に各般の文化が著しく進歩したことは敢て言ふを俟たない所であるが道路の整備は一段の開發を待望すること久しい間であつた。所が過般朝鮮道路令が公布せられ、七月二十一日の官報で朝鮮道路令施行規則が公布せられ愈々路政開發の本格的秩序が確立した。政黨の關係や地方的情實や地方人の勢力抗

注
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

争などが内地に比して稀薄なる半島である道路網の樹立、路線の選定、軍用道、産業道乃至觀光道の築造改良は緩急其よろしきを得技術上に行政上に公正優秀な特色を發揮し一日も早く半島道路を明朗化せんことを願望してやまない。

報恩感謝は人道の華

報恩感謝の事こそ實に日本精神の華である。近時人道荒びて報恩感謝の念うすれ行くはなげかわしき極みである。洒々悠悠世流に阿ねることなく常に貧苦の生活を送つた新潟の偉人長井雪坪の床しき人格として傳へらるゝ所に依ると報恩感謝の念が強かつたことである。居間の壁には鐵翁、逸雲

の二師匠の像を描いた幀をかけ朝夕これを禮拜して今日あるを感謝した。

また逸雲から貰つた三個の印は終生大切に神棚様の高い處へ飾つて使用する時は恭しく押し頂いて捺した。また支那留學の恩人フルベッキ氏や長崎遊學の時に力づけてくれた叔父治郎七のためにそれ〴〵戒名を書いて之を立て、香華を手向けた。フルベッキ氏の靈位には蘭を描いて手向草としてゐた。そして生命の緒の切れる時まで、「おれ位人の情によつて生きて來たものは無い、おれは本當に仕合者だ」と口癖にいつて、どんな小さな思も忘れることが無かつたと傳へらる。

あるかなさかの

珍聞奇譚 (17)

○穴堰貫通の日の昔噺 今から八十年前上水工事成功の日の喜びを新渡戸傳翁の一千十次郎氏は其日誌に

「『京の館振さらへと中蔵より上り道一里坪築上とも今朝出來榮につき熊の澤川より上水仕候處水勢よろしく四ツ時より流れ水荒堰にて八ツ半時までには三本木吉野屋裏澤へ流れ行けり、この節同村より大落瀬村まで早越にて任付致方これなき處今般上水をもつてその日より相用ひし趣十次郎儀三本木より下山(矢神)まで勢見巡歸りがけかねて製造の大船、京の館より鎌八郎、邦之助同船三本木の住還橋際に上陸成りこの節水先へ收藏、理喜藏、傳十郎、新作、理助附そへ京の節より天神まで宮之助、作吉、利惣治その他小頭共怠りなく土手見廻候處風穴これあり水ふき出し候へども少分の手當に忽ち防ぎとむ』寛政六年五月四日」と記して居るが其日を知る唯一人の農、中野渡きん(九三歳)さんが新聞記者に次の如く物語つたと傳へらる。『毎日毎日、二百人からの人夫が穴堰堀りをやつてゐました、わた

しはまだ七つか八つ頃でしたがこの人夫達は傳様(新渡戸傳翁の事)につれられて来た花巻衆だとの事でした、大聲で唄をうたつて穴堰の土を運ぶのでわたしは毎日ばあさんに手をひかれ穴のぞき(横穴)に行くのが楽しみなものでした。穴の中は暗いので人夫衆は皿に油を流しそれに火をつけたのを吊り上げて仕事をしてゐました、この人夫衆は大きな小屋を作つてそこに一緒にねとまりしてゐました、丁度そばに小さな澤があつて水がわいてゐましたがここより外に水の便がないので何から何までこの澤水で用を足してゐましたので人夫衆はこの澤のそばにお堂を作つて毎朝仕事前必ずおがんでゐた様でした。

わたしが十三の時、この穴堰が貫通して其時の騒ぎは全く大變なものでした、わたし「上の山のばば」は初孫で縁起がい、といふので私はばあさんにつれられ晴着姿で穴堰のくどいぞめをしました、もう堰

が通つたといふので人夫衆は大喜び穴堰のまはりでさかもり(酒宴)が開かれ口々に「三本木や誰や開いた町盛岡新渡戸襟拓いた町」といふ唄を歌ひながら踊り廻りました、どなただか知りませんがでつぶり太つた齧ら顔のお侍さんが見廻りに來られましたが大變うまく行つたと喜んでおました。

○明治維新の珍資料 浮浪者、國外脱走者 攘夷黨ちの取締りのため全國に立てられた明治維新に太政官が布令した制札が岐阜縣益田郡萩原町大字上呂の舊家桃川善次氏方で珍らしくも發見された、發見された制札は二枚でその一枚には浮浪者および國外脱走者の取締りの布令が、他の一枚には攘夷取締りに關する布令が違筆でいづれも長さ三尺、幅尺五寸位の扇形の杉板に記されてあり特に朝廷朝命など皇室に關する文字は一等高く筆太に書かれてある、この制札は當地名主をしてゐるを桃川氏方の公札所に立てられてゐたもので飛騨地方では梅村騒動の

際一撥のものがほとんど公札を破壊したので非常に珍重がられてゐる、なほ次は攘夷取締の全文であるが、當時の國狀を影拂たらしめるに十分である。今般王政御一新ニ付朝廷之御條理ヲ退ト外國御交際之儀被仰出諸事於朝廷御取扱被爲成萬國之公法ヲ以條約御履行被爲在候ニ付而者全國ノ人民御數旨を奉戴シ心得違無之様被仰付候自今

以後猥リニ外國人ヲ殺害シ或者不心得ノ所業等イタシ候モノハ朝命ニ悖リ御國難ヲ醸成シ候而已ナラズ一旦御交際被仰出候各國ニ對シ皇國ノ御奴信茂不相立次第甚以不届至極之義ニ付其罪輕重ニ隨ヒ士列之モノトイヘドモ制籍至當ノ典刑ニ被處候條銘々奉朝命猥リニ暴行之所業無之様被仰出候事 三月太政官

夏季旅行漫吟

初聲

雨たゞく窓の涼しや寢臺車 (車中二句)
 田植すみし湖畔を車窓はや曉けて
 鐵筋のいつから錆びて梅雨の驛 (大阪)
 瀨音近く寢覺め靜けし鳴く河鹿 (有馬)
 瀧茶屋をどよもして瀧落ちてけり (布引)
 薰風や竝に遊べる異人の子 (六甲)
 み佛の列び在しぬ青葉晴 (極樂溪)
 葉柳の雫の下や温泉の流れ (城の崎)
 股覗き袖覗きこれも涼味かも (天橋)
 梅天を湛へて灣の寂かさよ (舞鶴)
 梅雨罩めて塗りつぶしたる天地哉 (京都燈火管制)
 初島の近々とあり梅雨深し
 温泉けぶりの茂りに濃けれ夕なづむ (熱海二句)